

## 坂のまち、神戸、あれこれ

概要 | 坂のまちの魅力発信に向けた課題や事例の共有を目的として、市内9区のまちの愛好家と行政担当者がともに自分たちの区の坂をプレゼンテーション。

### ハイライト

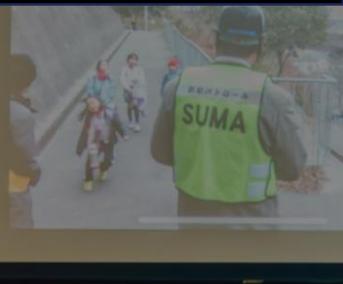
1. 9区それぞれの有識者と行政担当者の発表が、偏りなく充実し、神戸の坂のポテンシャルと、坂トークのポテンシャルを感じられた。
2. 坂というテーマに関心を寄せている方が多く、官民連携で取り組むポテンシャルがあることも分かった。
3. 坂のまちPRのアイデアが議論の中で飛び飛び交い、様々なアイデアがあることが分かった。（坂の愛称、坂カードなど）
4. 坂の景観だけでなく、名前の由来や歴史など坂の持つストーリーを知ることにより深く坂と向き合え、愛着が生まれることの気付きがあった。

## 激突！神戸！坂段コレクション

概要 | 坂のまちにおける愛着喚起を図るため、坂・階段好きのゲストと市民が集い、それぞれの推し坂とその理由を持ち寄った。

### ハイライト

1. 神戸の坂・階段ファンの存在と、その熱量を確認できた。  
市民それぞれの、坂や階段の思い出やストーリーが見出せた。
2. 市内の坂・階段の事例やその愛称を、具体的に写真や映像でみながらシェアし合い、盛り上げられることが分かった。  
また、共通で気になる（ランドマークのような）坂があることが分かった。  
（石井五十段、イナズマ階段など）
3. 地元の生活に根付いた視点やロケ地の視点、市外事例も交えつつ、坂や階段を楽しむ視点も共有し合えた。



## 坂とわがまち

概要 | 坂を有する7都市の行政代表者が集い、各都市の有する坂にまつわる事例や取り組みを紹介。

### ハイライト

1. 坂を共通言語として7都市が集い、語り合える場が成立する実績となった。
2. 各都市の環境や条件は多様だが「坂」というテーマで共通する課題や取り組みのヒントを参考にし合える議論が交わされた。坂道の捉え方は、その土地の環境や成り立ちに応じて多様であることなど、具体的事例を交えながら共有し合えた。
3. 坂の名前の由来や、名付けること、名前を表札などで視覚化することなど、坂への愛着における命名の意義を確認し合えた。

## 坂とまちなみ

概要 | 建築家を招き、建築の観点から坂に関する事例や取り組みを紹介。

### ハイライト

1. 建築の視点により、斜面には標準化を拒む力があり、人間の知恵が問われ、それが坂のまちの文化を形作る気付きがあった。
2. バルパライソ＝海外の坂のまちの事例にも触れながら、そこで生まれているまち並みや歴史を学べる機会ともなった。
3. ディスカッションの中で、空き家問題への取り組みを含む、芸術分野での活用などのアイデアも出た。

## 坂と文化

概要 | 坂に関連した作品に精通した有識者・作家を招き、文化の視点から坂の解釈やその効果を考えて。

### ハイライト

1. 坂を歩くという行動のインパクトには、坂との生活に伴って、日常の風景が記憶に刻まれていく効果がある気付きがあった。
2. ストーリーを産みやすくする舞台装置としての坂、誰かに記憶を語りたくなる装置としての坂の可能性が見出せた。
3. 名付けることは、コンパクトな持ち運びのできる物語。坂とともに生きている人々の記憶の集積から導き出すプロセスが坂の命名には不可欠。

## 坂と暮らし

概要 | 健康やモビリティ、コミュニティなどの観点から坂との暮らし方・向き合い方を考えた。

### ハイライト

1. 坂のまちにおけるモビリティやコミュニティの事例など、坂でくらす取組のヒントをシェアし合った。
2. 楽しく歩くことで坂は健康に貢献。楽しく歩くことのヒントは、いい雰囲気です話しながら歩くこと。
3. 坂には相互扶助的関係を促す効果があることの気付き。登山の時のあいさつ、坂と階段のあるまちでもあいさつ生まれやすい。
4. 坂のまちでのポジティブな暮らしを実現するための取り組みは、地域住民がコミュニティを活かして進め、行政はサポートに回るような関係性が望ましいなどの意見も出た。